

令和4年度 学校関係者評価書（新富町立富田中学校）

4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策と手立て	自己評価	学校としての取組と反省	評価 委員 評価	学校関係者評価委員の意見
1 向学 上力 の 定着 と	(1) 「本時のねらい」を確実に定着させる授業を実践する。	○ 日々の授業の中で継続的な実践と検証を行う。 ○ 授業改善に向けて校内研修をすすめる。	3.0	○ 第3学年の「全国学力・学習状況調査」や第2学年の「みやざき小中学校学習状況調査」における本校の当該学年の平均正答率は、各教科ともそれぞれ全国平均や県平均と同等の結果である。 ○ 定期テストや実力テストの機会を利用して、管理職と教科担当の間で、個別や教科別に学力向上に係るミーティングを積み重ねてきた。1単位時間のタイムマネジメントや小テストの在り方を改善しながら、指導方法の工夫改善を進めてきた。個別最適な学びや協働的な学びについては、今後とも先進的な事例を取り入れながら積極的に取り組んでいく必要がある。 ○ 1単位時間の授業において、まとめや習熟の時間が増える傾向があったため、1単位時間内の習熟の時間を確実に確保するよう、共通理解、共通実践をしてきた。 ○ タブレットを含め、ICTの活用については、夏季休業中にあらゆる側面からの校内研修を行い、2学期以降の利用促進につなげることができた。また、大型テレビについては、各学級毎に設置できる台数を確保することができた。	3.0	○ 授業参観の場面では、授業態度も良く、楽しく勉強できている様子を知ることができた。また、授業中でのタブレットの活用も順調に行われており安心した。 ○ 大型テレビが全クラスに配置されて、今後の授業への効果を期待したい。また、ICTを活用した授業を進めて欲しい。 ○ タブレットの活用はツールとしての有効だと考える。実体験と仮想体験とのバランスを見極めながら、活用を推進してほしい。 ○ 基礎・基本ができていれば、個人の努力によって上級学校での伸びにつながるため、今後とも基礎学力の定着をお願いしたい。 ○ 現在の入試問題は、思考力、読解力を必要とすること、制限時間内に相当量の文字を読み取ることが必要であることを知ることができた。テスト結果をもとにしたミーティング等、日頃の先生方の研鑽に感謝している。
	(2) 振り返りや補充の時間の確保に努めるとともに、生徒がその教科を好きになるような授業を行う。	○ 1時間や単元単位でのタイムマネジメントを的確に行う。 ○ 各教科の特徴を生かして創意工夫し、授業の魅力アップに努める。	2.8			
	(3) タブレット端末等のICTを活用して、教育効果を高める研究を推進する。	○ 職員研修の中でICT研究に取り組み、職員相互にサポートやアドバイスなどを行うことで全職員の実践力を育てる。	2.8			
2 育 豊 か な 人 間 性 の	(1) TPOに応じた行動様式や適切なコミュニケーション能力を身に付けさせる。	○ 自分の考えを適切に伝え、相手の考えに耳を傾けて互いに納得するような対応力を身に付けさせる。	2.7	○ 年度当初に新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、5月以降は可能な限り参集型の活動となるように努めた。 ○ 対外的な行事ではTPOを重要視してきた。特に修学旅行については、見学地の先々でお要めの言葉をいただいた。このことは日頃の指導の成果と考える。 ○ 体育大会については、熟練に熟練を重ね、新しい形での学校行事が展開できた。出番が大幅に増え、生徒の満足度はかなり高まったと認識している。 ○ 合唱コンクールは、当初計画から約2か月延期したが、町文化会館でのマスクなしでの合唱を行うことができた。 ○ いじめの早期発見、早期対応に努めてきているが、認知件数は昨年度より多い。今後とも学校の教育活動全体を通して、人が困ることや嫌がることはしないことの徹底を行っている必要がある。生徒一人一人にしっかりと寄り添って対応していく必要がある。 ○ 不登校対策については依然として教育的課題の一つである。今後ともスクールカウンセラーやSSW、関係機関とも連携し、解消に努めていく必要がある。	3.1	○ 可能な限り学校行事ができたことは、先生方の苦勞も大きかったと思うが、生徒にとっては大変有意義な経験となった。 ○ 不登校の数が増加している現状を鑑み、先生方も鋭意努力されているが、学校で対応できるレベルを超えていると感じた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携も十分に行っていると思われるが、もっと町の福祉行政や教育行政が対応していけるよう、今後とも学校からどんな意見も発信してもらいたい。 ○ 不登校の情報については、このような会議の場でなかなか伺えないことが多いが、情報提供できる範囲で詳細に教えていただきありがたい。改善傾向にある事例や厳しい事例があり、いじめと同様に早期の相談や対応が重要であることを改めて知ることができた。 ○ いじめの態様、現在のいじめに関する考え方について再確認することができた。また、学校がいじめアンケートを毎月行い、3年間保存していることも知った。今後とも早期発見、早期解決となるようお願いしたい。
	(2) 達成感や自己肯定感(有用感)、学校生活への満足感を高める。	○ 生徒一人一人が活躍できるような場の設定に努める。 ○ 「学校生活が楽しい」と感じる生徒を増やす。	2.9			
	(3) いじめや不登校の未然防止や的確な初期対応を行う。	○ 日常の観察や「いじめアンケート」実施、相談窓口の紹介などによって、いじめの早期発見を期す。 ○ 不登校の未然防止や的確な初期対応を行う。	2.8			
3 管 増 進 力 の 及 び 健 康 全 の	(1) 主体的に健康を管理する態度を育てるとともに、適切なメディア利用法を身に付けさせる。	○ 教育活動全体を通して、食事や運動、睡眠等を適切に管理させるとともに、ゲームや通信機器の適切な使用法を繰り返し指導する。	2.6	○ 新型コロナウイルス感染症対策は、マスクの着脱、換気、消毒、3密回避、黙食など徹底してきた。本校での日常の教育活動や学校行事が、感染拡大の要因となることは一度も無く、学級閉鎖等の措置をとることはなかった。 ○ 保健体育の授業や学級での指導、校内放送等を中心に、健康的な生活リズムを身に付けさせる指導を継続して行った。 ○ ゲーム機やスマートフォン等の通信機器の長時間使用やSNSでの諸問題が散見されている。その都度、早期に対応してきたが、今後とも生活リズムや学習に及ぼしている影響の周知に加えて、情報モラル教育を進めていく必要がある。 ○ 参観日とは別に、長距離走の授業のまとめの時間に、1500M記録会と称して保護者への参観機会の場の設定を行った。 ○ 部活動、校外クラブ活動にも熱心に取り組んでおり、各種の大会で好成績を収めた。新体力テストの結果は、A判定の生徒が各学年とも増加している。 ○ 毎月始めに安全点検を実施して、施設の維持管理を進め、けがや事故の防止を徹底した。避難訓練は、火災や地震・津波、不審者侵入対応などの様々な事態を想定して、訓練を行った。	3.1	○ 新型コロナウイルス感染症対策の1年間の取組の報告を受け、学校の取組に感謝している。 ○ SNSの指導については、学校の指導には限界があるように思える。携帯は、持たせた保護者の責任であることを十分周知する必要がある。 ○ ゲームや通信機器の適切な使用は永遠の課題ともいえるが、保護者への教育も重要であり、PTAとの連携のもと、家庭教育学級にて、講話を行うことも一つの方法と考える。 ○ 通信機器の使用について、ルールが決まられていない家庭が約半数ある実態を聞き、家庭によって様々な考え方があることを確認することはできたが、使用時間をはじめ、各家庭で最低限のルールは決める必要があると考えられる。 ○ 学校からの保護者アンケートが一つのゴールイメージをもって作成されていることを知った。また、家庭での子どもの教育もそれぞれのゴールイメージをもって進めていくことの重要性を再確認することができた。
	(2) 進んで運動に親しむとともに、体力の向上に努めさせる。	○ 体育の授業や運動部活動を通して、主体的に運動に親しめるとともに、新体力テストの結果等で状況の把握に努める。	3.2			
	(3) 交通安全や地震、津波、火災等への対応などの安全教育を推進するとともに、定期的な安全点検や安全管理を徹底する。	○ 毎月始めに職員による安全点検を行い、実態に即して迅速に対応するとともに危機意識をもって施設設備の管理を行う。 ○ 避難訓練を通して適切な行動力を身に付けさせる。	3.0			
4 学 生 の 信 頼 さ れ る 期 待 に	(1) 傾聴・承認・意思疎通に努める。	○ 諸課題や相談、悩みに対して、可能な限り時間をかけて寄り添う。	3.1	○ 日頃の業務における「報告・連絡・相談」に加えて、「つぶやき」を合い言葉に学校業務を進めた。各職員が気付いたり、抱えたりする諸課題を早期に解決できるように、学校運営を進めた。特に、学年職員間の連携により、学年の諸問題に対して即日解決を基本に、早急に対応できるように努めた。 ○ 職員が自身の職務に関して、現状の把握、必要な改善策の検討、他の職員への提示やリードといったサイクルを適切に行う機運を醸成した。また、教職員評価制度におけるミーティング等を通して、個々の考えを理解するとともに、状況に応じた支援を行った。超過勤務の削減に向けて合理的な職務遂行を推進しており、今後も継続していきたい。 ○ 学校全体では、学校だより「富田の風」を通して定期的に保護者や地域に情報発信を行った。ホームページは、学校生活の様子を具体的に伝えることや保護者にとっての利便性を重視して更新することに努めた。また、安心メールの登録の工夫や活用により、タイムリーな情報発信に加え、ピンポイントな情報発信を行うことができるようになった。	3.3	○ 「報告・連絡・相談」や「つぶやき」の取組を知り、学校に気軽に相談できる場所があり、心強く感じた。また、いろいろなことをスピード感をもって対処していることを知り、とてもすごいと感じた。 ○ 子どもたちのことを思う気持ちが強く感じた。素晴らしい取組であり、今後も継続してほしい。 ○ 3年間の新型コロナウイルス感染症対策に際し、教職員の皆様に感謝している。 ○ PTA組織の効率化を進めるうえで、組織の見直しが進められていることを知った。PTA組織の改編、PTA家庭教育学級の今後の進め方について協議が進められていることを確認できた。 ○ 4月からのコミュニティスクールにより、地域のボランティアの活用を進めてほしい。教育委員会のリーダーシップやサポートも必要と考える。
	(2) 効率的で質の高い職務遂行を図る。	○ 選択と集中を精査し、学校行事等の精選を図る。	2.9			
	(3) 積極的な情報発信を行う。	○ 学校だより等の紙媒体による情報発信を推進する。 ○ ホームページによる情報発信や安心メールによる情報共有を推進する。	2.9			